

課題名

「帝王切開術後の疼痛管理における、アセトアミノフェン投与のオピオイド使用量への影響の検討」について

○研究の目的

当院では全身麻酔帝王切開術後の疼痛管理目的に経静脈的自己調整鎮痛法(intravenous patient controlled analgesia:IV-PCA)を使用しています。IV-PCA で用いるオピオイド系の痛み止めは、悪心・嘔吐や傾眠、腸管運動抑制などの副作用をもたらす可能性があります。術後疼痛管理には、作用機序の異なる鎮痛薬の組み合わせが推奨されていますので、IV-PCA で用いているオピオイド系と異なる作用機序のアセトアミノフェンを定期的を使用することで、オピオイドの使用量が減れば副作用発現が抑えられる可能性があります。そこで、アセトアミノフェン投与による鎮痛効果とオピオイドの使用量を検討します。

○研究の方法

2009年12月1日から2029年3月31日までに、広島大学病院で全身麻酔帝王切開術を施行された患者を対象とします。

本研究は全て診療録(カルテ)情報を調査します。

調査する内容は術後疼痛にアセトアミノフェン注射液の定期投与追加群と非定期投与群での鎮痛効果とオピオイド使用量を後方視的に比較します。あわせて抜去までの日数、鎮痛薬注入回数、鎮痛薬リクエスト回数および副作用の発現状況を評価します。(個人が特定出来る情報は転記しません)

(研究期間 承認後～2030年3月31日)

○個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心下さい。

不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせ下さい。

*研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出頂いても今後の診療等に不利益が生ずることは有りません。

.....
お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel:082-257-5572

広島大学病院薬剤部

薬剤師 松尾 裕彰(研究責任者) 田中 まりの(担当者)